

海外だより

西ドイツアーヘン滞在だより*

天 辰 正 義*

1979年12月から西ドイツに滞在しています。西ドイツに来て、まだ短期間(約7ヶ月)の滞在ですが、日常生活や手続を経験し印象に残ったことを含めてお便りします。

(1) 日本から西ドイツへ出発

日本から外国へ出国するときは、いうまでもなく旅券が必要ですが、西ドイツに長期(3ヶ月以上)滞在中の場合は滞在許可証が必要です。これは必ず日本で取得して、出国しなければなりません。西ドイツで学術研究を目的として長期滞在中の場合、困難な問題はないように思います。出張承認書が少々遅れ、旅券の発給が遅れましたが、とにかくにも滞在許可の申請書を西ドイツ大使館(東京)に提出しました。出発準備にあせりながら、職場の皆様に歓送会をしていただき、会話の問題はすっかり忘れて、酔も醒めない気分で成田から機上の人となりました。

(2) 会話学校の生活

時間が前後しますが、出発の半年前に東京ゲーティンステットに西ドイツで会話学校に入りたい旨(場所・期間)の申し込みをしました。奨学金を受けて西ドイツに滞在中の時には、その財団が会話学校などの世話をしてくれる場合もあります。

Goethe-Institut は西ドイツ各地(人口が少なく下宿ができる町)にあります。2ヶ月単位で、各人の会話力に応じてクラスがつくられます。場所ごとに1ヶ月ずれていますので、西ドイツ入国に合わせて学校の場所を選択できます。一般的に言つて、南ドイツを、しかも夏期前後に来られる方が多いようです。私はSchwäbisch-Hallの学校に12月から入りました。

この町は人口は3.2万人でStuttgartから北東へ約70kmにあり、18世紀に製塩業で栄えた(現在も岩塩を採掘している)町です。Hallは古い言葉では塩の意味があります。この地方では昔、製塩業者が貨幣制度をつくり上げそれに関係した菓子祭り(Das Kuchen-und Brunnenfest)が毎年オースター(年初より第14週)の7週後の日曜日(Pfingst sonntag)に催されます。町並はドイツ各地どこに行つても整然として落ち着いています。この町では、煉瓦色の屋根と煙突の家が特徴的です。新築の家も昔の型(煉瓦を積み上げ、屋根は木材構造)で建築しています。部屋の面積は若年層一家族で平均85m²と聞きました。町には3500人が勤める住宅融

資銀行本店があり、他にビール会社などがあります。レストランが約10軒あり、どこも清潔でスープ付の食事で10~15DMです。西ドイツのどこで食事をしてもらってもそれほど高低はないようです。レストランとホテル(またはPension, Gasthof)が兼用のことが多く、シャワーがないときは30DM位から宿泊できます。シャワーが付きますと50DM位になります。

レストランも下宿の部屋も暗く、目を悪くするように思います。しかし、ドイツでは部屋の照明には念入りで、ランプによる間接的照明です。テーブルの上にはロソクを灯します。

Goethe-Institutでは、朝8時30分~午後4時の授業です。12~1月は7時30分ころようやく薄明るくなり、暗いうちに食事をすませて教室へ入ります。

下宿は入校初日に学校の事務室で世話をしてくれました。老人の家庭が多く、私もDeutsche Mutterの頑固さを見ました。学校に行つている間に、部屋を掃除してくれます。タオルなど放置していると、一定の場所(整理タンスなどに)きちんと再び戻してあります。部屋で静かにしていると、部屋に来て長話が始まります。そうでない時は、テレビを見たりワインを飲んだり、老人ホームにとにかく一緒に行つたり、いろいろしつこいほど親切にしてもらいました。Frau P. Schippertばあさんには感謝していますが、日本人では私が20番目に世話になったようです。このような小さな経験を通しておおげさですが、西ドイツと日本の文化的質の違いを初歩的に理解できるように思います。知り合いになつたドイツ人を訪問したり、町の博物館や銀行など見学しました。

今年の冬は暖冬と聞きましたが、-10°Cの日もあり一週間町を流れるKocher川が約10cm凍りました。どの町にも室内プールがあり、それと学校のシャワーを利用しました。冬季のため不便を感じました。

学生は世界中から来ていて、約200人中、日本人も中国人もそれぞれ10人でした。世界の人々との会話は、自分なりに外国の人々の考え方や行動性の違いを理解するのに何かと勉強になります。学校の案内で、NürnbergとFrankfurtへ動物園・博物館などの市内見物をしました。日帰りのバス旅行ですが、市内では地下鉄または路面電車を利用します。西ドイツの道路網は整備されており、運転に困難さはありません。高速道路は無料ですが、バスは90km/h、乗用車は140、ときには200km/

* アーヘン工科大学

h で走る車もあります。ドイツの自由は“速度制限なしだけ”と言う人もいました。道路のカーブがあるところは 130 km/h 以下と標示があります。

西ドイツをよりよく理解するためには、初めての滞在にとって会話学校での生活は 4 ヶ月必要と思いましたが、2 ヶ月の滞在で Aachen に向けて、小雪の散らつく Schwäbisch-Hall を発ちました。

(3) 手続き

外国生活に慣れない私にとって最も面倒なことは手続きでした。住居の契約、外人局への住居の転出・転入届、大学関係の手続き、健康保険の加入脱会および自動車関係などの手続きがあります。

アーヘンは人口約 25 万人の町で、学生が約 2.8 万人います。住居探しで一つの困難な問題です。受け入れ研究室に 2 ヶ月前に頼んでおきましたら、親切なドイツ人のこと何とかなりました。家具付の家が便利と思いますが、アーヘンでは少なく、新聞に応募したりドイツ人に尋ねたりしなければなりません。家具付の部屋はやや高くつきます。家具なしの部屋は、中古家具を整えることに時間を要します。契約書は 10 枚もあり、特別のページは自分で読んでサインしました。

町を出るときは、すべて転出届 (Abmeldung) をもらってきました。アーヘンで再び、手続きしなければなりません。市役所は 7 時 45 分から午前中に受け付けますので、早朝の方が廊下で並ぶことがありませんでした。

大学関係の手続きは会話学校に行く前に必要書類を整えて研究室の助手に依頼しました。学生で滞在する場合にもドイツ人に依頼すると確実です。ただし、念のため手紙を書いておくのがよいと思います。授業料は無料です。

健康保険の加入は学生証明書または給与証明が必要です。保険会社がありますので、申込用紙に記入して郵送しますと計算書を送ってきます。家族 3 人で、学生ですと 30 DM 位、研究者ですと 400 DM (月単位) です。薬局で手数料 1 DM でそれ以外は無料になります。脱会届をしないといつまでも請求書が来ます。転出のとき注意が必要です。

自動車関係の手続きは役所と保険会社で行います。とにかく半日並ぶ予定で行くと気軽でしょう。保険は日本の自動車保険 (英文) が有効です。国際免許証はドイツでは法的効力はありません。ベルギー・オランダに近いので私は初めの時期には迷い、あれあれと言う間に国境を走っていました。その他、いろいろ手続きがありますが、葉書または手紙を出しますと、正確で丁寧な返事が来ます。これらの手続きで、約半年が経過してしまいました。

(4) アーヘン大学周辺

有名なカール大帝 (8 世紀) のころ温泉が湧き出て、Aachen と名付けられました。現在もそれが療養施設と

して町の中心にあります。市庁舎およびドームは有名です。町の中心から北側に大学は位置しています。

地下にはベルギーにまたがって石炭が眠っています。ベルギーとの共同出資で地下ガス化の研究 (Arch. Eisenhüttenw. 51 (1980) 6 参照) が進められています。私が世話になつている Institut für Eisenhüttenkunde (所長: Prof. W. Dahl) の Gudenau 研究室も石炭・ライン褐炭のガス化研究に参加しています。アーヘンとケルン間に褐炭のコークス化設備 (10 万 t/y) が稼動しており、1985 年までに 4 基計画中で、その液化・メタン化の研究が進められています。

研究室に院生が約 10 人います。学校から 500 DM 程度、会社からの奨学金などを受けて質素に暮しています。研究の多くは産学協同です。院生は学生扱いよりも研究者の立場です。

6 月 11 日 Prof. Schenck 先生の 80 才の誕生日でした。講演会が開催され、日本から井上道雄教授、大森康男教授が講演されました。Schenck 先生はお元気に毎日学校で研究をされています。(Arch. Eisenhüttenw. 51 (1980) 6 参照)

アーヘンはルール工業地帯に接していますので、工場見学がよく行われます。現場を午前中に見学し午後討論になつています。この時の昼食はすばらしく院生もそれを楽しみにしています。日本の製鉄技術は一つ一つとりあげてもドイツのそれより進んでいるでしょうし、「鉄と鋼」はもはやドイツの製鉄所研究者にとって必読誌になつています。会社では必要な論文は約 3 ヶ月遅れで全訳しているようです。学校では少なくともグラフの意味を理解するために日本人に協力を求めます。製錬研究の立場から見て、Trans. ISIJ にはより多くの実験 (試験) 的あるいは現場的報告が期待されています。

大学では職員は 8 時から仕事をしています。ドイツ人は朝は早く、7 時に来る人もいます。午後 4 時半に玄関は閉まります。今年から夏時間を採用していますが、午後 9 時ころまで夕日が差しています。こちらの交際の場合はパーティです。各家庭に招待されたり、クラブ (スポーツに限らない) ハウスに招待されることで少しずつ知人が増えていくのでしょう。

オランダ・ベルギーに近いこともあつてか生鮮食品は比較的安く、1 人暮らしよりも家族の生活が割安になると思います。アーヘンから約 80 km にデュッセルドルフがありそこで日本食の必需品を買うことができます。アーヘンには約 40 人の日本人がいて、時折集まっています。

よりよくドイツを理解するために、もつともつとドイツ人と議論したり、またドイツ鉄鋼技術のふるさとを訪ね歩きたいと考えております。ドイツ人の精神的にゆとりある生活、それは学ぶべきことかと存じます。